

「新型コロナウイルスワクチン接種状況に関する調査」結果の概要と総括

令和4年1月26日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

3回目ワクチン接種（追加接種）の実施について厚生労働省から発表があったこと、及び第1回調査の結果を踏まえ、ワクチン接種の意向や優先順位、休暇取得等の職場環境、介護福祉士養成における課題等を検討することを目的に調査を実施しました。運営サポーター及び代議員313名（令和3年12月13日時点登録者数）を対象にアンケート調査を実施しましたのでご報告いたします。

【結果の概要】

1. 12月時点での3回目ワクチン接種（追加接種）については、まだ明らかな傾向はみられない

回答者の勤務先の所在地（市町村）における、医療従事者や介護従事者を対象とする3回目ワクチン接種（追加接種）の時期について「確定している」と回答したケースは23件（21.1%）にとどまった。勤務先のサービス種別等でワクチン接種に関する傾向を検討するためには、ケースが少なく限界があった。

2. 2回目ワクチン接種の際の休暇について、6割が接種翌日または翌々日まで休めた

ワクチン接種の副反応に備えた休暇について、「ワクチン接種日の翌々日まで休めた」「ワクチン接種の翌日まで休めた」が合わせて60.2%だった。一方で、「休みなし」も15.3%と2番目に高かった。自由記述回答からは、職場の状況等によってワクチン接種や休暇のとりづらさも指摘されており、介護職がワクチン接種を受けやすい職場環境の課題が示唆された。

3. 新型コロナウイルス感染症と関連する偏見や差別的な対応がみられた

「偏見や差別などはなかった」という記述が多かった一方で、ワクチン未接種に対する周囲からの否定的な言葉や、当事者にとって心理的負担となる反応が少なからずあったことが報告された。また、施設内で職員に感染者が出た際の利用者家族からの強い発言や、介護現場で働いていることを理由に保育園の通園を控えることについて依頼があった等のケースも報告された。

4. 介護実習受入れに際し、様々な制限や対応が求められた

介護実習受入れに際し、「マスク着用と手洗いの励行」のほか、「ワクチン接種を考慮」することや「施設内や実習生周辺での感染者が発生した場合の一時的な停止や中断」等を中心に様々な対応を行っていることが報告された。一方で感染対策の苦労や課題があるものの、感染対策の体験的な学習やコミュニケーション力の向上、施設と学校との信頼関係強化等の効果も示唆された。

【総括】

- ・ 介護サービスを提供し続ける体制を確保し、介護職が安心してワクチン接種できるためにも、コロナ禍においても介護現場の人員を確保できる仕組みについて検討することが必要である。
- ・ 介護福祉士を目指す学生の介護現場での学びを担保するためには、介護現場での指導体制の確保のほか、指導内容の工夫が必要であり、コロナ禍における実習指導方法等について好事例の横展開が望まれる。